

特集 三島由紀夫 生誕百年・没後五十五年

対談 執行草舟×松本徹 6

富岡幸一郎 三島由紀夫の百年・断章 43

徳岡孝夫 三島由紀夫「心々ですさかい」 46

佐藤秀明 死へのケア―「憂国」の麗子 53

山内由紀人 巨大な夕焼―三島由紀夫最後の芸術 62

有元伸子 三島由紀夫「弱法師」を読む 74

西村幸祐 状況としての三島由紀夫 85

名作再見

朝の純愛 96 F104 109 獨樂 118

集中連載 氾濫する『豊饒の海』 松本徹 121

―三島由紀夫 最後の五年間③

最終回

明日行灯〈8〉

演劇はこれから……

麻田実

310

文科 私論『方丈記』余聞 長尾重武 206

犬のこと……、そして猫。 齋藤禎 208

詩人キーツの家と「秋に寄せて」 広本勝也 210

齋藤十一のいた「昭和」 風元正 212

高橋友太郎という作家をご存じですか 中丸宣明 214

坂道の「不良少女」―五所平之助監督『挽歌』論 倉田剛 216

創作 くすぐり〈5〉 大道珠貴 227

翼を広げて 桂城和子 238

暗室の天窓から見える風景 高木敏克 250

天際に流れる 佐久間研吾 259

あなたの棲み家に死人がいるか 玉置伸在 265

トンネルの向こう 瀬戸みゆう 276

小特集 駒田信二 没後三十年

加地慶子 駒田信二、夜を生きる 187

田中智行 ニセモノの本領―駒田信二の金瓶梅をめぐる

佐高春音 駒田信二の『水滸伝』 199

192

連載 遠き日々 映る影たち〈5〉 柴田翔 304

海の詩学―三島由紀夫〈15〉

「花ざかりの森」の中の海(下) 鈴木ふさ子 316

学界への窓 25

『藤枝静男評伝』補遺―「瘦我慢の説」についてなど 名和哲夫 340

文藝季評 48

「自分」の行方 伊藤氏貴 344

道元―「正法眼蔵」の宇宙と人間(八)

仏性―恒久普遍なるもの(三) 勝又浩 385

同人雑誌および本誌会員から

芸術とAIに関する因果性概念の検討 児島成 348

聴こえる 中出禮子 350

三島が事件になって田中さんは 矢樹育子 352

砦

松本徹 237 勝又浩 249

会員規約 394

今号の執筆者 395

編集後記 396

同人雑誌季評

小説を/で描く 谷村順一 354

ロゴス/パトス/エートス 河中郁男 361